

## 研修レポート

2019年9月27日

名古屋第一赤十字病院 研修医2年目

この度は、地域医療研修として新城市民病院総合診療科で4週間研修をさせて頂き、ありがとうございました。大変お世話になりました。

今回の研修では主に、総合診療科の初診外来を担当していました。名古屋第一赤十字病院には総合診療科がないため、専門科の隔たりなくプライマリケアを行う現場での研修はとてもいい経験になりました。様々な疾患の患者が様々な症状を訴えて、日々外来を訪れていますが、先生方は“総合診療科に「うちの科ではない」という言葉はない”という姿勢で診療にあたっており、患者の悩みや訴えをすべて受け入れる姿勢に感銘を受けました。

研修医は救急外来での診療が業務の多くを占めることになるので、患者を診察するとまず検査、まず治療という考え方になってしまいましたが、“そもそもこの患者に対して本当に検査や治療が必要なのか”という視点を持つことも大切だと、新城での研修を通して学びました。検査1つ行うにしても、通院の手間・費用の増加・検査の侵襲など、いろいろな形で患者にとって負担になります。薬を処方する際も、副作用を考慮せずに処方すると、かえって患者にとって有害となってしまうことがあります。過剰な医療やポリファーマシーを避け、本当に必要な検査や治療を吟味して行うことの重要性を感じました。

また、先生方が **evidence-based medicine (EBM)** を重視して診療していることが印象的でした。慣習的な医療を漫然と行うのではなく、常に最新の医学知識をアップデートし、患者に最善の医療を提供する。当たり前のことのようにですが、新しい薬や新しい治療法が次々に生み出される中で、幅広い疾患を扱う総合診療科において常に最新の知識を身につけることは多くの労力を要します。新城市民病院では科全体や各チーム内で頻繁にカンファレンスを行っており、最新の医学知識を仕入れる環境が整っていると感じました。また、症例1つ1つに対して、上級医から細かいフィードバックを受けることができるため、とても有意義な研修となりました。

最後になりますが、今回の研修でお世話になった総合診療科の先生方、病院スタッフの皆さん、訪問研修をさせて頂いた施設スタッフの皆さんに改めてお礼を述べたいと思います。誠にありがとうございました。